

西口 遥

Nishiguchi Haruka



Q. 当局の魅力

職員一人一人が大切にされている職場であることです。

仕事については、個人で行うというよりは、チームで協力して行っています。その中で、自身の経験に応じた量の業務を任されており、仕事を負担に感じて悩むことはありません。ミスをしてしまっても同じ課のみなさんが優しくフォローしてくれますし、同じ課以外の職員からも、困っているときには声をかけてくれるので、温かく、働きやすい職場だなと感じています。加えて、財務局では若手職員を中心に、地域連携を推進する活動を行っており、若手職員にも活躍できる場があります。

また、ワークライフバランスの面では、有給休暇はもちろん、フレックスタイム制なども設けられており、課内で調整しながら、各種制度を取得しやすい雰囲気にあります。

このように、一人一人が色々な面からサポートされているので、安心して働ける職場です。



▲休日に仲のいい若手職員でハーブ摘みに

Q. 入局前後の印象

入局前後で印象が変わったことは、残業に関する点です。入局前は残業が多いことを覚悟していたのですが、実際には必要があれば残業する程度であり、通常は定時で退庁しています。

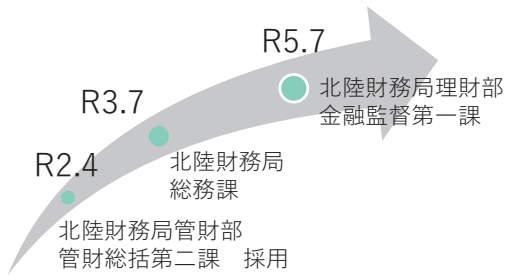
他に印象が大きく変わったことはなく、大学時に参加した業務説明会のときに思ったとおりで、優しくて明るい職員が多く、お話しして楽しい方ばかりです。

また、想像通りデスクワークが多いです(配属課にもよりますが)。入局前は、「営業とか外に出る仕事の方が気楽でいいな～」という安直な考えで外出の多い仕事に憧れることもあったのですが、実際に仕事してみると、仕事終わりに体力的な余裕があるので、平日帰宅してから趣味なども楽しむことができます。

Q. 受験生へのメッセージ

私の就活時は、筆記試験のことで頭がいっぱいで、実際に働くイメージを全くもっておらず、「受かればどこでもいい!」と思ったりもしましたが、いくつかの業務説明会に参加して、職員や職場の雰囲気を見たことで、最終的には「絶対北陸財務局がいい!」とまで思うようになりました。説明会では、お話しできる職員に限られ、職場全体の雰囲気を掴むことは難しいかもしれませんが、「いいな」という直感も大事だと思います。

試験勉強で手一杯だとは思いますが、是非説明会に参加して雰囲気を感じてみてください。



黒川 恵里

Kurokawa Eri



Q. 仕事のやりがい

地域貢献！とカッコよく言いたいところですが、正直、今は目の前の仕事と、勉強とで精一杯です。ただ、そんな若手職員でも、上司や先輩方にサポートしていただきながら、自分が主担当となる個別の案件を任せてもらえるので、やりがいを感じながら業務を行っています。また、これまで、管財、総務、金融と3系統の仕事を経験しましたが、異動の度に新鮮な気持ちで携わることができますし、その部署ならではの業務を経験できたことも、自身のモチベーション維持に繋がっていると感じています。



▲旅先での1枚①

Q. 当局の魅力

職場環境のよさが一番の魅力だと思っています。就職活動の時、私は「長く働ける職場」がいいなあと思いながら就職先を考えていました。その条件にぴったりだ、と思ったのが北陸財務局でした。

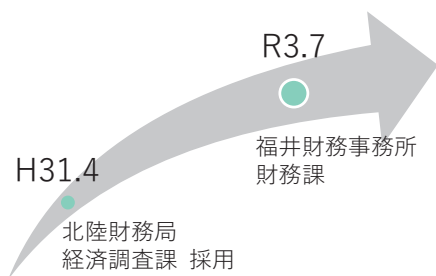
実際に入局しても、その感想は変わりません。業務やキャリアの選択肢が広く用意されていることもそうですが、優しい上司が多く、何かあった時には相談しやすい雰囲気ですし、困っている時にはアドバイス、フォローをしてくださるので、自分一人で悩みを抱えることがありません。プライベートでも仲良くしてくれる先輩や後輩もいて、風通しがよく、居心地のいい職場だと思います。休暇も取りやすく、趣味の旅行や映画など充実した時間を過ごせています。



▲旅先での1枚②

Q. 受験生へのメッセージ

就職活動は分岐点が多く、悩む場面がたくさんあると思います。時間も限られた中で、自分の将来を決めなければならないなんて、相当なプレッシャーですよね。ただ、私の経験則上、後悔しないために大切なポイントは、自分で決めること、です。実際に説明会へ足を運んで、その職場で働いている人達に話を聞く、質問する。とことん、自分がやりたいことや、働く上で大切にしたいことを考える。そうして自分で道筋を作って出した結論はきっと納得いくものになると思います。もちろん、時には、身近な人に相談することも必要です。ただ、最後の決め手が、誰かがそう言ったから、はあまりお勧めしません。今まで勉強してきたことや行動してきた事実は消えないので、これまでの自分にも、これからの自分にも自信をもってほしいです。



堀 達哉

Hori Tatsuya

Q. 入局前後の印象

公務員を志望したころは、正直なところ財務局のことをほとんど知りませんでした。

業務説明会に参加してみて、財政や金融の幅広いフィールドで、かつ専門性の高い仕事をしていると聞いて、難しい仕事をしている職場だと思いました。一方で、説明を聞いているうちに、職員が仕事に対して使命感や充実感を持っている職場だと感じました。

実際に働いてみて、職員が長所を活かして連携しながら仕事をする中で、「より良く」を目指している職場だと感じており、これが説明会で感じた使命感や充実感に繋がっているのだと感じています。



▲アフター5も趣味の筋トレで充実

現在、福井財務事務所で、地方公共団体への財政融資資金の貸付に関する仕事をしています。国の資金を活用して、地域の課題解決やインフラ整備などを支援することができ、ダイレクトに地域貢献ができることにやりがいを感じています。

Q. 仕事のやりがい

国と地域という2つの視点を持って仕事ができることにやりがいを感じています。

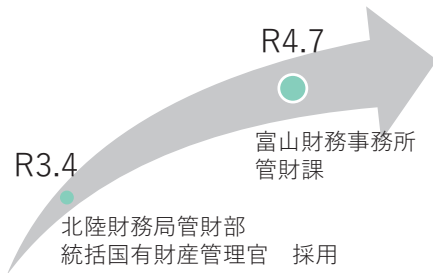
経済調査課では、北陸地域の現状や先行きについて調査・分析する仕事をしていました。新型コロナウイルス感染症の影響など、経済を取り巻く環境が変動したときに、地域に密着している財務局として、北陸経済の現場の声を財務省に届けたことや、調査結果がテレビや新聞で報道されることをやりがいに感じていました。

Q. 当局の魅力

一言でいうと、「コンパクト」であることが当局の魅力だと思います。もちろん異動範囲が北陸三県であることも魅力の1つかもしれませんが、それ以上に、フットワークが良く、職員同士の顔が見える、ということを大きな魅力として感じています。

北陸財務局は、他の財務局と比べて規模は小さいですが、他の財務局と同様に幅広い業務を行っているため、多様な業務を経験できます。また、分からないことや不安なことは経験豊富な先輩に気兼ねなく聞くことができます。このほか、RPAの導入など、業務効率化にも積極的に取り組んでいます。

このような環境にいるため、日々の業務の中に成長や研鑽の機会がたくさんあり、多くのことを吸収できる日々を過ごしています。



平野 蒼生

Hirano Aoi



Q. 仕事のやりがい

私は現在、富山財務事務所管財課で国有地の管理処分に関する業務に携わっています。具体的には、国有地の境界確定、売払、貸付、譲与等を行っています。管財業務では、実際に現地に行って国有地の状況を調査することが多々あります。現地調査では、国有地の境界標が存在しているか、不法投棄が行われていないかなどを確認し、適切な国有地の管理処分が行えるように努めています。

入局前は、定型的な業務が多いのではないかとイメージがありましたが、実際の国有財産業務では個々の財産に合わせた処理方針を策定して管理処分を行うので、財産によって行う業務が異なってきます。そのため、臨機応変な対応を求められることも多く、難しさを感じることもありますが、無事に案件を完了することができたときには達成感があります。また、法令及び通達の改正、ニーズの多様化等により、次々に新しい案件が発生するため、とてもやりがいがあり、日々チャレンジ精神を持って業務に取り組んでいます。



▲打ち合わせの様子

Q. 勤務地について

北陸財務局は、本局が石川県、財務事務所が富山県と福井県にあり、基本的に北陸三県が勤務地となります。その他に、財務本省や金融庁への出向もあります。私の場合は採用1年目に本局勤務、2年目から富山財務事務所で勤務をしています。

転勤があることで、新しい住居を探すなどの様々な手間がかかり、大変に感じる方もいると思います。住居については、国家公務員宿舎が北陸三県に整備されていますので、希望をすれば、宿舎に入居することが可能です。私も採用1年目に石川県の宿舎、2年目からは富山県の宿舎に住んでいます。特に富山県の宿舎は、職場まで歩いて通勤できる距離にあり、立地が良く、生活がしやすいと感じています。

Q. 当局の魅力

財務専門官の魅力としては、「地域社会に貢献できる仕事」という点があると思います。財務局の仕事では、財政、金融、経済調査、国有財産といった多岐にわたる業務があり、それぞれの分野で高い専門性を発揮し、地域社会と財務省・金融庁をつなぐという役割を担うことで、地域社会に貢献しています。

当局の魅力は「風通しの良さ」だと思います。北陸財務局は、他の財務局と比べて小規模ではありますが、その分、職員同士の顔が見え、フットワークが良いという印象があります。課内の上司にはもちろん、他の課の職員の方にも相談がしやすい環境がありますし、「北財PT」等の若手職員が取り組むプロジェクトチームも存在しますので、若手のうちから様々な経験ができる働きやすい職場だと思います。また、組織としてワークライフバランスを推進していますので、休暇の取得やフレックスタイム制度の利用などにより、職員一人ひとりが自身のライフスタイルに合わせて力が発揮できることも魅力だと思います。